

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による景気の停滞から持ち直しが見られるものの、欧州の金融不安や米国の景気低迷など世界的な経済の減速不安が高まり、先行きは不透明な状況で推移しました。

自動車業界におきましては、震災により被害を受けたサプライチェーンの復旧が進み、自動車生産の水準は当初の見通しよりも早く回復いたしました。円高の進行による収益への懸念が生じました。

このような経営環境の中、グループ一丸となり、「VISION2015」達成に向け、強固かつ高収益な体質づくりに更なる努力をまいりました。

売上高は、375億8千万円となり、前年同期と比べ13億1千万円の減収（前年同四半期比3.4%減）となりました。

営業利益は、8億8千万円となり、前年同期と比べて7億1千万円の減益（前年同四半期比44.4%減）となりました。

経常利益は、9億8千万円となり前年同期と比べて7億2千万円の減益（前年同四半期比42.2%減）となりました。

四半期純利益は、5億8千万円となり前年同期と比べて4億2千万円の減益（前年同四半期比41.9%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 自動車部品関連事業

売上高は、327億8千万円となり、前年同期と比べ26億4千万円の減収（前年同四半期比7.5%減）となりました。

② 自動車製造用設備関連事業

売上高は、46億9千万円となり、前年同期と比べ13億4千万円の増収（前年同四半期比40.3%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ22億9千万円増加し、365億円となりました。これは、現金及び預金が14億2千万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ3億4千万円減少し、446億6千万円となりました。これは、投資有価証券の3億6千万円の減少によるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて19億5千万円増加し811億6千万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ17億8千万円減少し、180億5千万円となりました。これは、主に1年内返済予定の長期借入金の20億円の減少によるものです。

固定負債は前連結会計年度末に比べ32億4千万円増加し、191億5千万円となりました。これは、主に長期借入金の36億2千万円の増加によるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ14億6千万円増加し、372億円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4億8千万円増加し、439億6千万円となりました。これは、主に利益剰余金の2億8千万円の増加と為替換算調整勘定の2億8千万円の増加によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、自動車生産台数の回復を受け、売上の増加が見込まれますが、米国における金融緩和や欧州数カ国における財政悪化を受けた超円高、タイ洪水によるタイ自動車生産の長期停止など、会社を取り巻く状況は予断を許さないものと思われまます。

なお、第2四半期の実績を踏まえ、第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値の差異を開示しております。

詳細につきましては、本日開示の「平成24年3月期 第2四半期累計期間における業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。